

自分事として考え、よりよい生き方について考えを深める道徳授業

- 1 **主題名** よりよい社会の実現 **内容項目** C 社会参画, 公共の精神
- 2 **ねらい** よりよい社会の実現に向けて、社会の一員であるという自覚を深め、社会とつながりを持ち積極的に社会と関わろうとする実践意欲を育てる。

教材名 すべての人に読書の楽しさを

(出典:「彩の国の道徳『未来に生きる』埼玉県教育委員会」)

3 **主題設定の理由**

(1) ねらいや指導内容について

人間は一人では生きていけない。日々、互いに支え合って生きているが、中学生のこの時期は、周りの人や社会から支えられている自分に気付かずに過ごしていることも多いと考えられる。そのため、この時期に、人間としての生き方や社会の在り方について深く考え、よりよい民主的な社会を実現するために、中学生である今の自分が、どのように社会の一員として主体的に参画し、役割を果たすことができるかについて多面的・多角的に話し合うことが大切である。

「社会連帯の自覚」とは、社会生活において、一人一人が共に手を携え、協力し、誰もが安心して生活できる社会をつくっていかうことである。一人一人の個性を尊重し民主的な社会を築くためには、社会を構成する多くの人々と助け合い励まし合いながら社会連帯を深めることが求められる。そのような社会連帯の自覚を深めることは、社会の一員として、多くの人と協働しながら、主体的に社会に参画するために必要不可欠であると考えられる。

そこで、よりよい社会の実現に向けて、社会の一員であるという自覚を深め、社会とつながりを持ち積極的に社会に関わろうとする実践意欲を高めるために、社会の一員として社会とつながり、互いに協力し合うことのよさを考えさせたい。

(2) これまでの学習状況及び生徒の実態について

自分が社会の一員であると実感している生徒は少ないと考える。社会の一員としての自覚をもてるように、第2学年の道徳科では、社会の様々な問題に目を向けて考える教材を活用し、自分事として考えられるようにした。

第3学年では、社会の一員として社会とつながり、互いに協力し合うことのよさを考えられるように、他教科等ではこれまで次のように関連させてきた。社会科の公民分野では、選挙のしくみについて学んだ。あと数年で選挙権が与えられることから、選挙を通して社会参画することの大切さを考えた。また、生徒一人一人が社会の一員としての自覚をもつことができるように、様々なテーマに対して、自分の意見を持ち、それをもとに、ディベート方式で話し合うなど、社会参画について自分事として考える工夫を行ってきた。さらに、本校では、総合的な学習の時間の学校のテーマを「共生と向上」として、第1学年「地域の人々に学ぶ」、第2学年「学ぶことと将来の進路」、第3学年「21世紀に生きる・・・今、私にできること」をテーマに学んでいる。生徒は、地域と自分とのつながりから、自分の学びや進路を考え、さらに視点を広げ、日本や世界のために自分にできることを考えている。SDGsの目標を視点として活用しながら、総合的な学習の時間を中心に教科等横断的な学びの実現に向け取り組んでいる。また、各教科等では、それぞれの特性を生かしながら、現代的な課題に対して今の自分に

できることを常に考えさせる工夫を行っている。


このような指導により、少しずつ社会のことに興味・関心をもつ生徒が増えてきた。しかし、自ら社会と関わり行動しようとする意欲をもつ生徒は少ない。そこで本時では、よりよい社会の実現に向けて、社会の一員であるという自覚を深め、社会とつながりを持ち積極的に社会に関わろうとする実践意欲を高めるために、社会の一員として社会とつながり、互いに協力し合うことのよさを考えさせたい。

(3) 教材の特質や活用方法について

社会の一員として社会とつながり、互いに協力し合うことのよさを考えさせるために、社会とのつながりを大切にした生き方をしている「佐藤聖一さん」に自我関与させる。さらに、佐藤さんの活動により社会とつながることができた男性側の思いも考えさせることで、社会の一員として社会とつながり、互いに協力し合うことのよさを多面的・多角的に考えさせる。

以上の理由から、本主題を設定した。

4 学習指導過程

段階	学習活動と主な発問	予想される生徒の反応	・指導上の留意点 ☆評価の視点
導入	<p>1 アンケート結果から自分たちの実態を知る。</p> <p>授業支援アプリのアンケート機能を活用し、結果を大型テレビに映す。</p>	<p><事前アンケート></p> <p>問1：あなたが居場所だと感じている所はどこですか。 自分の部屋、家庭、学校、地域、インターネット空間、等</p> <p>問2：あなたは社会（地域社会）の一員だと実感したことはありますか。それはどのような時ですか。</p> <p>問3：社会とつながりをもつことは必要だと思いますか。その理由は何ですか。</p>	<p>・アンケート結果を活用することで日頃意識することが少ないと思われる社会とのつながりに意識を向け、話し合う必要感をもてるようにする。</p> <p>・社会との関わりを意識している生徒を意図的に指名し、身近な例を共有できるようにする。</p>
<p>ICTの活用</p> <p>入力された意見を見て、教師は意図的指名をし、話題を学級全体に広げ、多様な意見を共有することができる。</p> <p>問2の結果</p>  <p>問題意識をもつための工夫</p> <p>T：「地域社会の一員だと実感したことがありますか」という質問では、「わからない」という回答が多いですね。</p> <p>T：(略) 実感したことがあるかどうかは「わからない」けれど、次の「社会とつながりをもつことが必要だと思いますか」という質問では多くの人が「必要」と答えています。ここで、答えてくれた人の理由を見ると、「つながりがあったほうが楽しい」とありますが、どんなことがあったのですか？</p> <p>S：僕は、たまに公民館へ行きます。そこで小さい子と一緒に遊んだりすると、その子の親から感謝されて、嬉しい気持ちになります。</p> <p>T：公民館へ日頃から行くのですね。〇〇さんはそこでつながりをもつことの必要性を感じたり社会の一員と実感したりしたのですね。しかし、このアンケートからわかるように多くの人は必要だと思っはいるものの、社会の一員という実感がよくわからない。そもそも<u>なかなか「社会とのつながり」と言われてもピンとこないかもしれません。今日は、「社会とのつながり」に目を向けて、みんなで考えていきましょう。</u></p>			

展開	2 条件・状況を知る。	<ul style="list-style-type: none"> ・主人公：佐藤聖一さん ・視覚障害者 ・埼玉県立久喜図書館で働いている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教材をタブレット端末に配信し、一人一人が自分のタブレット端末で読めるようにする。 ・「社会の一員として」をイメージしにくい生徒に対し、「学級の一員として」と置き換えるように伝えることで、積極的に社会と関わろうとする主人公の気持ちを捉えられるようにする。
	3 教材の範読を聞く。		
	4 佐藤さんの生き方をもとに考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・自分にできることを探したいと思ったから。 ・周りの人や社会に支えられた分、自分も貢献したいから。 ・社会の一員として役に立つ仕事がしたいから。 	
	① 「せっかく働くな ら、社会で人のため になる仕事を探そ う」と思ったのはな ぜだろう。		

自分事として考える工夫

(生徒の「仕事をしたい」という発言を受け)

T: まだ中学生なので、仕事をした経験はないけれど、将来みんなが仕事を選ぶときに、どんなことを基準にしますか。

S: 好きなことをしたいと思います。

S: お金も大切だと思います。

T: その思いも分かりますよね。佐藤さんは、「自分だからこそできる社会で人のためになる仕事」と考えていましたね。どうして、せっかく働くな、社会で人のためになる仕事を探そうと思ったのでしょうか？

S: 同じように目が見えない人の役に立ちたいと思ったから。

S: 自分も困った経験があるから、困っている人を助けたいから。

T: 誰かの役に立ちたい、自分が困ったときに助けてもらったから逆に助けたい気持ちがあったかもしれませんが、みんなも佐藤さんと同じような気持ちを体験したことはありますか。

② 対面朗読サービスを受けに来た男性はどんな思いになったのだろう。

- ・自分の困難に感じていたことが楽にできて助かった。
- ・自分も社会と関われるのだと嬉しくなった。
- ・目が見えないことで、孤独に感じていたが、社会の一員であると実感した。

- ・様々な立場に立つことで、社会の一員として社会とつながり、互いに協力し合うことよさを多面的・多角的に考えられるようにする。
- ・女の子とお母さんのエピソードにも触れ、佐藤さんの思いが周りの人につながっていく様子も話題にする。

多面的・多角的に考える発問の工夫

S: 男性は佐藤さんのサービスを受けて、人とつながることができて嬉しくなったと思います。

S: 幸せを感じたと思います。

T: 社会とつながることは、なぜ幸せなのだろう。これまでの男性は違ったのかな？

S: 目が見えなくて、一人で落ち込んでいたこともあったのではないかと思います。

S: 家族しか関わる人がなくて、寂しかったと思います。

S: たくさんの人とつながれることに幸せを感じたのだと思います。

考えを広げるための
問い返しの発問

主人公だけでなく、男性の気持ちも考えたことで、社会には様々な思いをしている人がいることを理解し、中心的な発問でより多面的・多角的に考えられるようにした。

③ 「今日はなんてよい日なんだろう」と佐藤さんは満面の笑みを浮かべましたが、これからどう社会と関わっていきたいと思っているのだろう。

(中心的な発問)

・佐藤さんはどんな社会にしたいのだろう。(補助発問)

- ・自分がしたことで、誰かが喜んでくれて嬉しかったので、人とのつながりを大切にしたい。
- ・他にも関われない人がいるかもしれない。もっと頑張りたい。
- ・これからも自分にできることを社会のためにしていきたい。
- ・社会とつながりをもっていきたい。
- ・積極的に行動していきたい。

・佐藤さんに自我関与することを通して、自分の考えを明確にし、社会の一員として社会とつながりを持ち、充実した生き方をしていることに気付けるようにする。

☆積極的に社会と関わっていく主人公の生き方を通して、社会の一員として社会とつながり、互いに協力し合うことよさを多面的・多角的に考えている。

(発言、ワークシートの記述)

自分の考えを明確にし、仲間と考えを比べる工夫

自分の考えを明確にするために、ワークシートに自分の考えを記入する時間を設けた。その後、3人～4人で話し合いをする時間を設けた。「仲間の考えで、自分とは違う考えだなと感じたことや、この考えよいなと感じたことは、仲間の考えの欄にメモしておきましょう。」と声をかけ、自分の考えと他者の考えを比較できるようにした。

S: 今まで助けられていたことがあったから、次は同じようなことで困っている人のために、一人一人が生きやすい社会を作っていくと思います。

S: 苦労をしながらも、より多くの人を少しでも幸せにしていくなために働き続けていくと思います。

S: みんなが社会と関われるようにするために、日常生活で困っていることを聞いて、社会と関わることの大切さを広げていくのではないかと思います。

S: 「社会の一員となる大切さ」かな。
(発表後に「一員となる大切さ」とワークシートに記述。)

S: (前の生徒の発言を受けて「大切さを広げる」とワークシートに記述。) 誰でもやりたいことができ、楽しく過ごすことができることを広めていきたいと考えていると思います。

生徒が、仲間の意見を基にしながら、自分の言葉を使って、考えを広げている様子が見られた。



「規律ある態度」の育成

【話を聞き、発表する】 グループの話し合いを通して、自分の考えと他者の考えを比較しながら聞くことや自分の考えを伝えることができるようにする。

- ・これまでに社会とのつながりを感じたことのない生徒には、社会に支えられている身近な例を挙げ、自分と重ね合わせて考えられるようにする。
- ・うまくいかないことがあっても、乗り越えてきた主人公の粘り強さにも触れ、主人公の原動力も考えられるようにする。

④ 自分を振り返る
「佐藤さんのように、社会とつながりをもつ生き方をどう感じましたか。」

自分を見つめる書く活動

教材を離れ、自分をじっくりと見つめるために、書く活動を行った。振り返りの問いを明確にして、道徳的価値について、自分との関わりで考えることができるようにした。

☆主人公の生き方と自分の生き方を比べながら、社会の一員として社会とつながり、互いに協力し合うことよさを自分との関わりで考えている。
(発言、ワークシートの記述)

★：具体的な評価の視点

★自分のよさを見つめ、自分との関わりで具体的に記述している。

★社会とつながりをもつことは幸せだけでなく、「楽しみや支え合いになる」と多面的・多角的に考えている。

社会とつながりをもつことは、
 自分にとってのよさを見つめ、
 自分との関わりで具体的に記述している。

… 社会の一員として社会と
 つながり、互いに協力し合うこと
 のよさを多面的・多角的に考えている
 記述。

社会とつながりをもつことは、
 自分にとってのよさを見つめ、
 自分との関わりで具体的に記述している。

社会とつながりをもつことは、
 自分にとってのよさを見つめ、
 自分との関わりで具体的に記述している。

… 社会の一員として社会
 とつながり、互いに協力し合う
 ことのよさを自分との関わりで
 考えている記述。

… 社会の一員として社会
 とつながり、互いに協力し合う
 ことのよさを自分との関わりで
 考えている記述。

★社会とのつながりは、「助けること」だけでなく、「助けられることにもつながる」というように多面的・多角的に考えている。

★これまでの自分の現状を認識した上で、自分にできそうなことを考えている。

終末

5 佐藤さんのお話の動画を視聴する。

- ・自分から進んで社会と関わっていけるとよいな。社会の一員としての自覚をもって生活していきたい。

- ・教材文にある二次元コードを活用して動画を視聴する。
- ・教師も共に人間としての生き方について考え、生徒の考えから気付いたことを伝える。
- ・社会とつながりをもつことのよさを感じられるように話をする。

佐藤さんは、「困ったときに助けてくれる人、アドバイスをくれる人がいた」と話していました。それは、きっと自分からいろいろな人と関わったり、社会とのつながりをもっていたりしたからこそだと、みんなと一緒に考えてみて私は感じました。みんなも立派な社会の一員です。社会に助けられることもあれば、きっと社会を助ける存在でもあると思います。中学生だからこそできることもありそうですね。



5 板書



6 他の教育活動との関連

社会科	選挙のしくみについて学び、社会参画の意義について一人一人が自分の考えをもてるようにする。
特別活動	生徒会活動の一環として、ボランティア活動に参加し、社会の一員として、貢献できることを実感できるようにする。
総合的な学習の時間	SDGsで挙げられている目標をもとに、興味・関心の高いものを選び、それに対して様々な視点から、自分にできることを考える。
家庭との連携	道徳科の授業の様子を学級通信で共有し、家庭でも「社会とのつながり」「人とのつながり」を話題にできるようにする。

7 評価の視点

【物事を多面的・多角的に考えている様子】

- ・社会の一員として社会とつながり、互いに協力し合うことよさを多面的・多角的に考えている。

【道徳的価値についての理解を自分との関わりで深めている様子】

- ・社会の一員として社会とつながり、互いに協力し合うことよさを自分との関わりで考えている。